

## 5 高等学校における道德教育（平成26年度広島県教育資料から抜粋）

高等学校においては、「生徒が自己探求と自己実現に努め国家・社会の一員としての自覚に基づき行為しうる発達の段階にあることを考慮し人間としての在り方生き方に関する教育を学校の教育活動全体を通じて行うことにより」、道德教育の充実を図ることとしている。そのためには、学校の教育活動全体を通じた道德教育の相互の関連性を明確にし、指導の具体的な場でどうすればよいかなど、学校としての基本的な考え方を明確にしておくことが大切である。

### ＜高等学校における道德教育推進のポイント＞

- 教職員間での道德教育に係る共通理解を図る。
- 計画的・継続的な指導を行うための組織づくりを行う。
- 推進上、基軸となる機会と場を設定する。
- 固有の指導内容・指導方法、教材を開発する。
- ※小・中学校の道德教育を基礎として
- 自己の生き方を社会とのかかわりで探求させる。
- 各学校の特色を生かして重点的な道德教育を展開する。

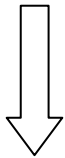
「高等学校における道德教育推進のポイント」を踏まえ、学校の実態や生徒の発達の段階などにふさわしい教育活動を行えるよう、校内研修を充実することが求められる。

### 機能的な協力体制による道德教育の推進（例）（県立尾道商業高等学校の取組）

尾道商業高等学校では、学校の教育活動全体を通じて行う道德教育を推進していくために、道德教育を主に担当する教師を中心に校内の研修体制の充実を図り、教職員間での道德教育に係る共通理解を図るとともに、既存の分掌での協力体制を活かし、教職員一人一人が役割や責任をもって取組を進めている。

#### 【具体的な取組事例】

- 共通理解・・・道德教育推進に係る共通理解を図るため、まずは中学校における道德教育（全体研修会）を理解しておく必要性から、近隣中学校の教諭を講師に、全教職員を対象にした研修を夏季休業中に実施した。



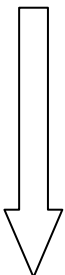
#### 【教職員の感想】

- ・中学校で行っている道德教育の内容が具体的に分かった。
- ・昔の道德のイメージではなく、最近の学習資料（読み物資料）が生徒にとっても身近なものなのだと分かった。



全体研修

- 計画・準備・・・研修会后、「尾商デパート」を取組の柱に、学年の生徒実態や重点課題（教材検討会）に係る視点（第1学年「自覚」、第2学年「責任」、第3学年「誇り」）を基に教材づくりに取り組んだ。



①学習指導案作成（教育研究部）

②学習指導案検討1（**道德教育推進委員会**→全学年）

③学習指導案検討2（各学年別）

管理職，主任（学年会・分掌・教科など）

#### 【協議中の声】

- ・生徒の思いを引き出していくにはどうするか。
- ・展開で、これまでの学習内容といかに結び付けられるか。



検討会

- 実践・・・ホームルーム活動において、集団や社会の一員として主体的に「尾商デパート」に参画する態度の育成をめざし、話し合い活動の充実を図った。その際、自己の生き方を社会とのかかわりで探求させるなど、人間としての在り方生き方に関する教育の展開に取り組んだ。